

■施肥の状況

令和7年8月19日に圃場に施肥しました。

写真1 施肥前の圃場



写真2 施肥中の圃場



写真3 施肥後の圃場



広く整地された圃場を前に、いよいよ施肥試験が始まります。トラクターがゆっくりと進みながら、施肥機で肥料を散布し、広大な畑が徐々に栄養で満たされて行く様子は、まさに圃場管理の要といえます。

■定植の状況

令和7年9月13日に定植しました。

写真4 区分1（化学肥料区）



写真5 区分1（化学肥料区）



写真6 区分2（下水汚泥肥料+化学肥料区）



写真7 区分2（下水汚泥肥料+化学肥料区）



区分1では化学肥料のみ、区分2では下水汚泥肥料と化学肥料を併用した施肥試験を実施しています。栽培方法は、白マルチを使用し、カボチャ育成。苗の横には、ソルゴー（植物名）を植え、敷きわらとしての利用や防風対策、害虫対策の役割を担っています。

■整枝

令和7年10月1日に整枝しました。

写真8 区分1（化学肥料区）整枝前



写真9 区分1（化学肥料区）整枝中



写真10 区分1（化学肥料区）整枝中



写真11 区分2（下水汚泥肥料+化学肥料区）
整枝後



定植後18日目、カボチャ圃場で整枝作業を行いました。

子づるは2本を残し、その他の副茎を除去することで、主枝の生育を優先し、栄養分の分散を防ぎます。

さらに、株元の過繁茂を抑えて通風性を確保し、病害発生リスクの低減を図ることを目的としています。

■追肥及び敷きわら

令和7年10月6日から7日にかけて追肥及び敷きわらを行いました。

「追肥」写真12 区分1（化学肥料区）



写真13 区分1（化学肥料区）中耕



「敷きわら」写真14 区分1（化学肥料区）



写真15 区分1（化学肥料区）



写真 16 区分 2（下水汚泥肥料+化学肥料区）



写真 17 区分 2（下水汚泥肥料+化学肥料区）



定植後 23 日目、区分 1（化学肥料区）と区分 2（下水汚泥肥料+化学肥料区）に追肥を行いました。

追肥後はトラクターで耕起し、土壌を整えています。今年は降雨が多いため、排水性を高める目的で溝を掘り、生育への影響を最小限に抑える工夫を施しました。

また、防風対策として栽培していたソルゴーを、カボチャのつるの伸長に合わせて敷きわらとして利用しました。圃場では雄花の開花が始まり、着果に向けた準備が進んでいます。

■着果

令和 7 年 10 月 14 日に着果を確認

写真 18 区分 1（化学肥料区）



写真 19 区分 1（化学肥料区）



写真 20 区分 2（下水汚泥肥料+化学肥料区）



写真 21 区分 2（下水汚泥肥料+化学肥料区）



定植後 31 日目、区分 1（化学肥料区）と区分 2（下水汚泥肥料+化学肥料区）ともに着果を確認しました。

果実は両区とも直径約 3cm 程度に肥大を開始しており、生育は順調です。雄花の開花も継続しており、受粉環境は良好と判断されます。